



# ゆたかっこ

学校だより 10月号②  
豊見城市立ゆたか小学校  
豊見城市字豊見城 601 番地 1  
TEL850-6639 FAX850-3940  
校長 宮平 やすみ

## 1年の折り返し！親子で「ふりかえり」を！

第2期「挑戦」の1学期後半は、あっという間でした。夏休みが明けてから約一ヶ月半という期間でしたが、どの学年もさまざまな体験学習や校外学習をたっぷりと経験し、1学期前半よりも成長した子ども達の姿をたくさん見る事ができました。今日、子ども達に手渡される「よい子のあゆみ」には、子どものがんばりや成長が具体的に記されています。ぜひ、子どもと一緒に「よい子のあゆみ」をご覧になり、わが子のよさをうんとほめてあげてください。「よい子のあゆみ」の一番の役目は、親子でふり返し、これからのやる気をぐんと高めてもらうことです。がんばったことは大げさなくらいほめてあげましょう。もう少しがんばってほしいことは、「どうすればできそうか」「何を協力してほしいのか」等、がんばる方法をいっしょに考えてあげてください。安易なごほうび作戦は、本当のやる気にはつながらないことが多く、ごほうびがないとやる気がでない子になってしまうので気をつけましょう。「～ができたら、いっしょにピクニックに行こう、いっしょに昼ご飯をつくろう、いっしょに本屋さんへ行こう」と親子の時間をごほうびにするのもよいでしょう。「今日は好きなテレビ番組を選ぶ権利をあげよう」「大好きなゲーム時間を20分サービスしよう」「10分間、〇〇ちゃんの話を家族みんなで聞いてあげる」と家族からもらえる喜びをごほうびにするのもいいかもしれません。子どもの興味関心や性格によって効果もいろいろ違いがあると思いますが、ものやお金ではなく、精神的な満足感を得ることで、子どもの中からわき出てくる本当のやる気を引き出すいいタイミングだと思います。

### 1学期をふり返って



#### 【2年生代表】

友利ゆあんさん 比嘉ともはさん  
大塚さほさん 健山ももこさん

#### 【4年生代表】

益田大聖さん 平良真生さん  
宜保里和さん 湧田博哉さん

### 教室や机にも“ありがとう！”

98日間、ありがとう。きれいにして、また2学期からがんばるね！



「よい子のあゆみ」の様式について  
今年度から、島尻地区全域で校務支援システムを活用して成績処理を行っています。「よい子のあゆみ」の様式も豊見城市内の小学校はほぼ共通しています。

そこで、学校予算を効果的に利用する上でも、1学期の「よい子のあゆみ」は、普通の用紙に印刷したものをお渡しします。2学期に学校へ提出する必要はありません。2学期(学年末)には、正式な用紙(上質紙)に印刷したものをお渡ししますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

ピアノのBGM  
にのせて♪

### 終業式

施設見学でたくさん学びました

陸上がすきになりました

2学期始業式は10月17日(木)です！

# 子どもの自由な想像をはたらかせて「これは、りんごかもしれない」

6年生の掲示でおもしろい学習カードを発見！子どもが自由に発想し表現する機会を取り入れると、考えることはもっと楽しくなりそう！そう思わせてくれる6年生の作品をいくつか紹介します。（おもしろい発想がいっぱい！）



なまえ 前田 悠悟

12 さい



なまえ 宮城 彩音

11 さい



なまえ 村上 山人

12 さい



クラブ活動（4～6年生）が終わります。教えに来てくださったボランティア講師のみなさん、ありがとうございました。  
【三線、琉球舞踊、書道、折り紙、エイサー】



## 子育ての部屋「耳ぐすい（耳薬）」

このコーナーでは、様々な教育書の中から子育てのヒントになりそうな情報を一部分で紹介しています。私が勝手に選んだ情報ですので、参考にするかどうかは皆様の判断にお任せします。ちょっとしたヒント「耳ぐすい」にぜひいろいろ～と思います。

親が子どもをか弱いものであるかのように扱えば、本人も「私は困難に対処できない」と信じたまま大人になる。だが、子どもが「私は強いから、イヤな気分にも対処できる」と思えるように親が支えてやれば、1人で対処する力がつく。さまざまな感情を抱くのは当たり前だ、と子どもは知る必要がある。だから、悪いことが起こったら悲しんでいいのだ。実のところ、悲しむことは、傷を癒やすプロセスの一部だ。だからといって、ずっと不機嫌なままいる必要はない。子どもでも、自分の感情の手綱（たづな）を握れる。朝から虫の居所が悪くても、学校でイヤなことがあっても、気分が晴れるような選択はできる。

とはいえ、人は気分のままに行動したくなるものだ。悲しいときは、家で1人、じっとしていたくなる。でもそれでは悲しい気分がふくらむだけ。気分と裏腹な行動を取ることが、感情を変えてくれる。仲間と出かければ元気が出るし、散歩に出かけたら、気分が良くなるだろう。大事なことは、子どもが感情に対処する健全な方法を見つけられるよう導くこと。導いてやらないと、子どもは気分をよくするために、あまり健全ではない方法を見つけってしまうかもしれない。悲しんでいる子は、自分をなだめようと食べ物に走ることもあるし、寂しいティーンエイジャーは構ってほしくてオンラインでの出会いを求めるかもしれない。

わが子に、自分をなだめ、落ち着かせ、元気づけてくれる、健全な方法をあらかじめ教えておこう。ただし、心に留めておいてほしい。誰もが同じもので元気になるわけじゃない。少し外で遊べば落ち着く子もいれば、静かにぬり絵をするのが何より効く子もいる。・・・〈中略〉・・・

楽しい気分のときにしたくなる、と子どもが言ったことをすべて書き留めよう。そして嫌なときに、そのリストのどれかをすすめるといい。「悲しいときや寂しいときに、このどれかをやると気分が晴れるよ」と子どもに教えてあげてほしい。また、「気分を高めるキット」をつくるのも一案だ。小さな箱を用意して、楽しい気分になりたいことを思い出させてくれるアイテム—ジョークブックや画材など—を詰め込もう。じいじの面白い写真など、子どもを笑顔にしてくれるものを入れてもいい。練習すれば、子どもは、何をすれば一番元気になるかがわかってきて、自分でやれるようになるだろう。……………

「メンタルが強い親がやめた13の習慣」（エイミー・モーリン）講談社